

いのちの水

二〇二〇年

五月号

七一一号

キリストの力は、弱さの中で十分にあらわれる。

(Ⅱコリント12の9より)

目次

- ・ 良き知らせ 1
- ・ 遮断されない交流 3
 - ― 神の国との交流
- ・ 主の名による集まり 9
 - ネットによる春期四国聖書集会
- ・ 春期四国聖書集会に参加し
ての感想 10
- ・ お知らせ 録音CD、スカイプ
休憩室 ミルトス



良き知らせ

現在、世界ではこの数カ月、新型コロナウイルスによってかつて経験したことのないさまざまな困難が生じている。

毎日の新聞紙上は大部分がコロナ関係の記事で埋めつくされ、最近ようやく大都市では感染確認者数が減少に転じたという良き知らせも見られるようになった。

しかし、外国を見るとますます増大しつつある国々も多くあるし、全体として喜ぶるといふ状況はいつになるか見通しもつかない。

だが、今回の新型コロナウイルスの感染がはじまる

以前から、誰にとつてもよい知らせというのほとんど見られない。

そうした中で、この世界には、はるか二千年前にキリストが現れて以来、良き知らせが宣べ伝えられるということがずっと止むことがない。

そして福音と訳された聖書の原語は、ギリシヤ語では、*euangelion* (ユーアンゲリオン) であり、「良き知らせ」という意味である。ユーとは「良い」、アンゲリオンは、アンゲロー(知らせる)に由来する言葉で、アンゲロス(知らせをもたらす人、使者を意味する。ここから、神の知らせをもたらす存在ということ)で、英語の *angel* (天使) という言葉が生まれた。福音の「音」は、この場合は、物理的な音でなく、音信という言葉があることから推察されるが、消息、知らせおとずれを意味する。

いかにこの世が困難な状況に立ち至ろうとも、聖書は、一貫して「良き知らせ」を伝え続けてきたことに驚かされる。

それに対して、一時的に良し知らせと見えてもすぐに消え失せるものは、日々の生活の中でも、また歴史上においてもいくらでもある。

例えば、戦前では太平洋戦争を始めたとき真珠湾攻撃が大勝利と宣伝し、国民は

熱狂的にその「良き知らせ」を歓迎した。しかし、わずか半年ほどで、生じたミッドウェー海戦で、派遣していた空母4隻すべてが撃沈され、搭載していた戦闘機約290機の全ても喪失し、わずか数日の戦闘でアメリカ軍の10倍ほどの3千人を越える犠牲者を生み出してしまった。

それでも、軍部、政府もマスコミなども、そうした大敗戦を告げずに、勝利したかのような偽りの「よい知らせ」を国民に向けて発表したのであった。

福島に原発が多く建てられたとき、原発ゆえの多くの収入が地元に入り、学校や道路もよくなり、仕事も増える：等々よき知らせばかりと思われていた。しかし、それから、50年ほどを経

後放射能ゆえのさまざまの困難な問題を知らせる悪しき知らせが現在にいたるまで絶えることがない。

このような特別なできごとに限らず、私たちの毎日の新聞、テレビ等々では、本当によき知らせであり続けるようなことが報道されることはほとんどない。

私たちの身近なところでも、結婚したというよい知らせや赤ちゃんが誕生したというよい知らせも、まもなく深刻な対立を生じて離婚となり、双方が重荷を負っていかねばならなくなるといふ悪しき知らせになること、また赤ちゃんの子育てに苦しんで鬱になる人もあり、その成長とともにいじめうけたり、加害したりで、日夜親も悩み苦しむ状況となることもある。

このように、この世はたえ

ず移り変わり、よい知らせと思ったことはまもなく悪しき知らせとなることも実に多い。

人生そのものが、若い健康なときには苦しみや悲しみもなく成長していく人も多いだろう。

しかし、老年に至って、健康面や家族との離別等々で、心から喜べるよき知らせということは次第に少なくなるといふ現実が、心の内からそうした暗き知らせを思い起こさせるようになる。

若い人でも中高年でも、さまざまな悩みや苦しみを抱えている人は無数にいる。自分の心にたえず自分はいじめだ、人間は信頼できない、将来は絶望だ：等々の悪し

き知らせのようなのが浮んでくる。

そのようなこの世の現実にあつて、最初に述べたように、一貫して「良き知らせ」を語り続けているのが、聖書であり、その聖書を書かせた神、キリストである。

どんなことがあつてもただ愛と真実な神を信じるだけで、さまざまの闇の世界からの知らせのただなかにあつても、良き知らせをうけるようになる。

キリスト教における「良き知らせ」(福音)とは何か。

それは、私たちすべての魂の奥深いところにある罪をキリストを信じるだけで赦していただけるということ、死という万人にとっての悪しき知らせと思われていることに對して、信じる者には、復活があり、死後もキリストの栄光の姿に変えら

れるということ、さらに神の国をくださるといふこと、神は全能かつ完全な愛の御方であるから、いかに悪しきことがあっても最終的には神がすべてを転じて良きことにしてくださいとさること…等々である。

その全体が良き知らせの書といえる聖書にも目を開かれていく。

た様々な集まりが、規制されるようになった。

核の内部構造がはっきり解明されていく過程でほんのひとかたまりの核爆弾が一瞬にして数十万の人をも殺害し、建造物も徹底的に破壊してしまふ。あるいは大怪我を負わせさらには何十年の間放射線による病気が苦しみと悲しみ、痛みをもたらし、そのようなこともいまから百年ほど昔では、だれも、前には考えられな

健康な人、病気の人、他人から虐げられている人、貧しい国、豊かな国の人…等々、どのような人であつても、ただ神を信じて仰ぎ見るだけでその良き知らせを受けとることができる。

さまさまの悪しき知らせが、満ちている現代において、この永遠に変わらぬ良き知らせ―福音を信じて、死さえも復活という良き知らせを伴うのだということを中心に深くに留めておきたい。

人々が、場所に集まると感染が増えるということから、その感染を防ぐために、さまさまの科学技術、とりわけ医学、薬学などをもつてしてもどうすることもできず、最も原始的な方法と言える一人一人が家にできるだけ留まるという方法が世界的に強く勧められ、あるいは強制さえなされてきた。

そのような科学技術の驚くべき進展にもかかわらず、今回のように新しいタイプのウイルスの働きを終息させるには、ただ一人一人が家にこもるといったような科学と全く関係のないような方法によつてしかその勢いを弱めることができなかつた。ワクチンができるまでは、少なくとも一年はかかると言われているし、さら

ラジオのスイッチを入れるとさまさまの内容を聞けるようになるように、私たちが、神とキリストを信じて仰ぎ見るといふ心のスイッチを入れさえすれば、永遠に変わらぬ良き知らせを聞き取り、受けとることができるといふことになる。そして、

現在さまさまの問題で苦しんでいる方々がどうかその困難のなかで、この福音―よき知らせを知つて受けいれ、新たな力が与えられま

すようにと願つてやまない。

これだけ科学技術が進み、半世紀ほど昔に人間が月に着陸したり、その数年後には、遠い木星の探査がなされ、近年ではまた、小惑星に到達してその物質を持ち帰るとか、最近では、人工知能による自動運転が発展しつつある。

遮断されない交流

―神との交わり―

新型コロナウイルスによつて人と人との交流が遮断さ

れ、様々な集会、学校、音楽会、美術館、博物館、研究会、国際会議、…そうし

ばならない計算が一瞬のうちになされてしまい、原子

新型コロナウイルスによつて人と人との交流が遮断され、様々な集会、学校、音楽会、美術館、博物館、研究会、国際会議、…そうし

ばならない計算が一瞬のうちになされてしまい、原子

核の内部構造がはっきり解明されていく過程でほんのひとかたまりの核爆弾が一瞬にして数十万の人をも殺害し、建造物も徹底的に破壊してしまふ。あるいは大怪我を負わせさらには何十年の間放射線による病気が苦しみと悲しみ、痛みをもたらし、そのようなこともいまから百年ほど昔では、だれも、前には考えられな

にウイルスの変異というこ
ともあり、ウイルスを最終
的に撲滅することは困難と
言われている。

これは、科学技術の限界を
思い知らされるべきことで
あった。

その限界については、今ま
でも様々な方面で言われ
てきたことであるし、私達
が少し立ち止まって考えれ
ば直ちにわかる様なことが
あるが、今回はそれを特
に強く感じさせることになっ
た。

人間は集まる存在であり、
すでに二千数百年前にアリ
ストテレスが言った言葉、
人間は社会的動物だという
ことは誰でもが当然のこと
として受け入れることができ
る。

何かのこをやっていくに
は、一人ではできない。人
が集まらなければできない。

なにかの製品を生み出した
めには、人が集まって話し
合い、実際に様々な作業を
する。

その会社、工場には多くの
人が集まるための道路や交
通機関が発達しているほど
効果的なのでそうした所に
は人を集団で移動するバス、
列車など交通機関が発達す
る。

そして会社にたくさんの人
が集まり、平地では住めな
くなるので高層ビルができ
て一つの高層ビルの中に何
百軒も入ることができるよう
になり、地上数十メートル
のビルが林立し、本来
の人間が住む環境としては
異常な状態があたりかも正
常のようになってしまう。

何らかの交流がなければ仕
事ができない。交流なくし
てやっているように見える
仕事でも、例えば、農地を

家族で耕し、自給自足とい
う程度であればそれで充分
だけれども、より収入をあ
げようとするとなちまち農
機具や農作物を運ぶトラッ
クなどが必要となり、それ
らを作る工場、会社そして
そうした農作物を売りさば
くための農協やスーパーな
ど人が集まる場所がなけ
れば大きな収益を上げるこ
とはできないということに
なる。

このように人々が多く集ま
るということは、科学技術
の進展とともに必然的なこ
とであったが、人が集まる
ほどこのウイルスは感染力
を発揮していくために、集
まること自体の大きな問題
点を初めてはつきりと世界
に知らしめた出来事であっ
た。

新型コロナウイルスでな
くとも、感染する病気を防

ごうとするならば隔離する
ということとは歴史的に見て
も不可欠であった。

そのために例えば長い人類
の歴史において、その恐ろ
しい病状のゆえに家族から
も周囲の人たちからも退け
られ、非常な苦しみや悲し
みを生み出したハンセン病、
そして以前は亡国の病と恐
れられた結核：それらを撲
滅するためには当然隔離す
るということが不可欠であっ
た。

現代における感染症、イン
フルエンザにおいても多く
の人が感染すれば、学校で
あれば学級閉鎖をして生徒
が集まらないようにする。

そうしたことと全く別に、
日本でも戦前は、国家権力
に対して、その間違いを指
摘したりするならば牢獄に
入れられ交流は遮断され、
昔は、暗い不潔なところで

食物も十分に与えられず、冬は寒く、耐えがたい死の苦しみに至るような拷問を受けることさえあった。そうして徹底的に人と人との交流が遮断された。

神の国との交流

―神、キリスト、聖霊との交わり―
しかしそのような中においても与えられる交流があった。それは目に見えない神の国との交流であり、いつの時代においても、どんな状況においても、ただ神とキリストを信じるだけで与えられてきた。

私たちには、目に見えない神との交流、霊的な交わりが与えられており、神はそのような交流の道を全ての人に与えようとしておられる。

現代においても重い病気や重度の障がい者となって、

寝たきりになるならば多くの人とのつながりは途絶え、その状態が長く続く時にはかつての友人も去って訪問があつたとしてもごくわずかになつていく。

けれどもそのようなただ中であつても保たれ得る交流、それこそは目に見えない霊的な存在である神との交わり、神の国との交流である。聖書はこのような万人に与えられる交流について一貫して記している。それは、最も継続的で最も良きものである愛と真実による交わりなのである。

それは「聖霊による交わり」と言われている。使徒パウロにおいて神はそのような目に見えない交流の道を簡潔な言葉で示された。

：主イエス・キリストの恵み（*）、神の愛、聖霊の交

わりが、あなたがた一同と共にあるように。
(Ⅱコリント 13の13)

―この短い言葉は礼拝における終わりの時になされる祝祷として用いられているが、キリスト者一人一人が私たちに自身や交流のある人たちに対する祈りの言葉として常に用いられるべき内容である。

(*) 主イエス・キリストという時に「主」というのは原語のギリシヤ語ではキュリオスという。その *Churios* というギリシヤ語は旧約聖書で神の名であるヤハウェのギリシヤ語訳として非常にたくさん用いられている。

キリストの使徒たちが使っていたのはヘブライ語の聖書ではなくギリシヤ語に訳された聖書だった。そのギリシヤ語訳聖書においては、神ヤハウェの事をキュリオスというギリシヤ語で表していたために、「主」という語は神を表す言葉としてキリスト教徒たちには受け取られていた。

主イエス・キリストという時には、神と同じ本質を持った神であるとともに、人であること、それがイエスという名前であわされ、さら

にキリストとはヘブライ語の *マシーアハ* (油そそがれた者の意、英語では *メサイア*、日本語では *メシア* という発音) のギリシヤ語訳である。

その動詞の形は *マシーアハ* であり、それは香油を塗るとか香油を注ぐという意味である。王や、大祭司がそのような香油を注がれることによって、神の本質的なものをそそがれるという象徴的な意味をもっていた。

その *マシーアハ* (メシア) のギリシヤ語訳が、*クリーストス* (日本語ではキリスト) という発音になっている。そしてそのような人が世の終わりに救い主として来られるという預言がいろいろな所で言われている。

それゆえに、「主イエス・キリスト」というだけで神であり人であるキリスト、そして神の本質を注がれて世の終わりに世界を救うために来られる方という意味が含まれている。

そのような神であり人であり救い主である方の恵みとはどういうことであろうか。

恵みという言葉は日本語では、例えば農家の人にとつては恵みの雨というのは非

常に重要なことで晴天が続きて野菜穀物が育たない時に雨は降ることを非常に大きな喜びとなる。

その他、恵みとか恵むという言葉は、日常的に使われる。健康や能力などを恵まれる、家族を、友人が恵まれる、今日の運動会には晴天に恵まれたとか、日常的に、ごくふつうにに使われる。

しかしキリスト教において「恵み」はそのような日常的なことも含むが、その言葉の中心は歴史上で一回起こったことにある。それはキリストが私たちの根本問題―すなわち私たちが正しい道、真実の愛の道が歩けない、その人間の根源にある罪を贖う身代わりになって死んでくださったということ。

そして信じる者は誰でもそ

の罪の赦しの喜び、平安を実際に得ることが出来る。

そしてまた最大の問題である死ということさえも、イエスが死にうち勝つ力をもっておられると信じる者は、信じた時すでに復活の力は与えられる。

そのようなことがこのキリストの恵みの中心に置かれていく。

さらに、そのようなこと以外のあらゆること、生活の中で例えば歩けるといふこと、目が見えて指が動く、さまざまの自然を味わうことができる。毎日の空や雲の動き、植物や小鳥たちからも神の愛を汲み取ることが可能となっていく。

神を目で見ることができない。それにもかかわらず私たちが神様を信じ神を仰ぎ、祈る生活を続けられるのは、神との聖霊による交わりが

与えられているからである。そして、信じる人同士にあつても、人間的な好悪の感情による交流でなく、聖霊による交流―神の愛と真実による交わりという道が与えられている。

これこそはどんなに距離が遠くても、また敵対する人に対しても、遠くに行つた人でも、病院の中であつても聖霊による交わりの道は与えられている。

こうした神との交流は、すでに旧約聖書から一貫して記され、とくに詩篇においてそのうるわしい交流の世界がほかに類のない深い意味をもつて記されている。

聖書の最初の書である創世記においても、とくに神を知らされたアブラハム、ヤコブやヨセフなどによって示されている。そうしたなかで、ヤコブが兄の激しい

憎しみを受けて遠い地へと逃れる旅の途中、荒野で石を枕として眠っていたとき、夢の中で驚くべきことが示された。

：彼は夢を見た。先端が天まで達する階段が地に向かつて伸びており、しかも、神の御使いたちがそれを上つたり下つたりしていた。

(創世記28の12)

これは、孤独な一人旅、そして前途の不安や危険のただなかにあつても、神の国にかかる懸け橋は存在し、人間との願い、祈りを天に運び、また天の国の霊的な賜物を地上の人間に運んでくる交流が与えられること象徴的なできごとであつた。

そうした天の国との交流を深い孤独と悲しみや苦しみにさいなまれつつ、そうし

た天への懸け橋を見いだした人の例を次に記す。

ある重度障がい者となったハンセン病の女性の例

今回のようなコロナウイルスだけが、交流を妨げるのではない。すでに述べたように、ハンセン病が恐れられたのは、ひとたびその病気になる、病の非常な苦しみだけでなく、家族も友人も仕事も全てから遮断されてしまう恐ろしい病気であったからである。

しかし、そのようなハンセン病にかかった人たちでも神とキリストを信じる生活に転換した人たちは、聖霊との交わり、イエスキリストの恵み、神の愛から遮断されることはなかった。

神とキリストをただ信じて求めるだけで、こうした聖霊による交わりを持つこと

が許されたことをその人たちの書いた文章によってうかがい知ることができる。

ハンセン病によって両眼失明、しかも足も切断、両手の自由も失ったという重度の障がい者となった玉木愛子(1887〜1969年)という女性がいます。

そうした肉体の甚だしい苦しみだけでなく、同時に、ハンセン病になったことが周囲に伝わったときには、当時は遺伝病とみなされていたゆえに、家族、親族の者さえもその苦しみが及び、みな結婚もできなくなり、家として破滅的な事態になっていくという恐ろしき運命が待ち受けていた。

それゆえに、自分の家にも居ることができず、一人山中に入って命を断とうとまで考えたが、すでに手足のマヒが進行しつつある身

では到底山中に一人いくことはできず、また、母は娘がらい病と宣告されてからは、胸に五寸釘(長さ15cm余)を打ち込まれているようだと聞いたほどの深い悲しみと苦しみにあった。

母は親族や周囲の人たちに、だれにも娘がハンセン病だとはいうことができず、遠い親族のところに行つているとか言い繕つては、いつそれが発覚するかおびえつつ生きていた。

それがどうにもならない状況においつめられていき、淡路島に渡る船から母子ともに手を取りあつて身投げをしようと言つたほどだった。

そうした絶望に沈む心を抱えて魂の暗夜をさすらつていたとき、たまたま見いだした遠い熊本のハンセン病院(回春病院)の存在をしつ

て手紙を出し、家族、友人などすべてに別れを告げて、その療養所に赴くことになった。:

その後、キリスト教信仰が与えられ、その信仰に根ざした俳句、短歌を作るようになった。

後に、その不自由な体をもつて同じ病気のより軽症の人に書いてもらったものが本となって出版され、それによって初めて著者が、いかに深い悲しみと痛み、苦しみに遭いつつ、たとえようもない闇の淵に呻吟し、心身ともに倒れそうになりつつ、生きていったかが推察された。

しかし、そのような恐ろしい運命のなかにあつて、キリスト信仰に出会い、神と生けるキリスト、聖霊による交わりは、愛の神と全能の神であるゆえに、神の創

造した身の回りに広がる様々な植物たちの小さな一枚の葉や路傍に咲く小さな野草、雑草と言われて多くは関心も持たれないような植物たちのその一つ一つの花たちと交流が与えられる。

病気などで山へ行けなくても、聖霊が豊かに与えられるほどに、ちいさな自然からも大いなる神の愛を感じ取ることができるようになったのだ。それは彼女の次の俳句にもあらわされている。

信ずれば
天地のもの あたたかし
それほどの苦難にありつつも、天地のものあたたかし

(「真夜の祈り」25頁)

と言えるほどにまでに魂の
変革が生じたのである。

これこそ、神の国との交流が与えられ、聖霊による交

わりが与えられたからであつた。

あらゆる良きものから見捨てられ、なにゆえに自分だけこのような恐ろしい運命にもあそばねばならぬのか―幾たび涙に沈み、魂の叫びをあげてきたことであろう。

天地のもの、みなが自分を見捨て、暗夜に冷たく放置しているとしか思えないような状況にありながら、玉木愛子の魂には天地が暖かき何かを深く感じる事ができた。

それこそ、神の愛の温かみだった。聖霊による交わりがいかなるものであるかを如実に示している。

また、水野源三(＊)のよう
な全身が動かない重度の障がい者であっても、彼の書いた詩からはそうした聖霊

による交わりが何であるかを知ることができる。

次の詩を見ても、狭い室内で毎日を動けない身で過ごす中であつて、彼の心は神と聖霊との交流により、かぎりなく広く、かつ清くされていたこと、主の愛にうながされての祈りの世界があつたのを知らされる。

平和

住む国も
話す言葉も
考える事も



それぞれ異なる
何十億の人々が
父なる神さまの
みもとに立ち返るように

朝に祈り
夕に祈る
仰いだ時から

主なるイエスを仰いだときから
行きなれた道にかおる白い花

みどりの林に歌う小鳥さえ
私に知らせる御神の慈愛を

主なるイエスを仰いだときから
見慣れた消えゆく夕ばえなる空
屋根ごしに光る一番星さえ
私に知らせる御神の力を

主なるイエスを仰いだ時から
ききなれた窓をたたく風の音
夜更けの静かに降る雨の音さえ
私に知らせる御神の恵みを

(＊) 水野源三(一九三九―一九八四) 九歳のときに、赤痢にかかり、命はとりとめたが全身が動かなくなり、言葉も出なくなつた。後にキリスト信仰に導かれ、まばたきをもって、母親が示す五十音図の単語を示して詩を作るようになった。

聖霊による交わりは、どんな状況であつても、人生の荒波のなかに呑み込まれそうになつてもなお、与えられることが聖書に記されて

いる。

風は吹いても雨が降っても
ということであり、苦しい
ことや辛い孤独な時には、
その神に叫び、そして神か
らの励ましを受けて霊的な
交流が与えられるという道
が備えられている。

使徒パウロが、最も重要な
ローマの信徒への手紙で、
「死の力も、現在のものも、
未来のものも、力あるもの
も：いかなるものも神の愛、
キリストの愛からはばむも
のは何一つない。」と記し
た。

これは、この手紙のクライ
マックスと言うべき個所の
最後に記されていること
であり、この内容の重要性
がわかる。

この新型コロナウイルスの
蔓延によって人間との集ま
りが遮断されるような時、
いかなるものによっても遮

断されない交流があるとい
うこと、それは、イエスキ
リストからの恵みであり、
神の愛によることを知らさ
れ、私たちはあらためて、
何ものも動かすことができ
ないその力を知らされてい
る。

主の名による集まりーイ
ンターネットによる「春期
四国聖書集会」

遠く離れている者同士であつ
ても、神とキリストを仰ぐ
心をもって集まるなら、

「二人または三人がわたし
の名によつて集まるところ
には、わたしもその中にい
る。」(マタイ18の20)と
いう主イエスの言葉をあら
ためてその真理性を実感す
ることができた。

それは、去る5月9日(土)
10日(日)に開催された、

春期四国聖書集会において
である。

もともとは、徳島市のホテ
ルでの開催という予定が新
型コロナウイルスのために
集まることができなくなつ
た。そのため、インターネッ
ト(スカイプ)を中心とす
る集会へと変更されること
になった。

そして、ネットを使えない
方々には、今回の集会の聖
書講話や証しなど全部の内
容を印刷した文書による参
加とし、時間を合わせて参
加するという形になった。

今回文書参加(約20名)も
合わせて百名を越える方々
がインターネットのスカイ
プ参加を中心として集まる
ということは、初めてのこ
とであったが、北海道から
九州に至る各地の方々、
インターネットという手段
とともに主を仰ぎ、御言葉

を受け、讚美と祈りを共有
できたことは、大きな感謝
だった。

そして、「求めよ、そうす
れば与えられる」というキ
リストの約束の深い意味を
さらに感じさせていただい
た。

主の力は時間も空間をも越
えて働く。神の霊、聖霊こ
そは、見えざる翼を持つも
のごとく、どのようなと
ころへも届き、海山や建物
に妨げられずに働くことが
できる。それは、聖霊は神
と同じ本質をもっているゆ
え、全能かつ愛であるから
だ。

その聖霊が参加者に働いて、
心に残る集まりとしてくだ
さった。

我々の徳島聖書キリスト集会
では10年余り以前に、徳島市の
集会場で行なわれる主日礼拝
や夕拝、さらにいくつかの家
庭での家庭集会で、重度の障が

いを持つていて集会に参加できない方が参加できるようにと、インターネット(スカイプ)を併用してきた。

それによってネットを用いる方法をも主が祝福してくださるのを感じてきたが、今回のように、県外の多くの初めての方々も含めての集会は初めてだった。

神の霊による集まりは、どのようなことにも妨げられずに働く。それは、すでに二千年前から、新約聖書に記されている。信じる者同士は、遠く離れていても目に見えないキリストのからだである、一つにされているというのである。

…あなた方は、キリストのからだであり、一人一人はその部分である。

(Iコリント12の27)

ここには、遠く離れていて互いに顔も見えずとも、キリストを信じることによつて、キリストの目に見えな

いからだの一部となるという驚くべき真理がある。

それによって「一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、一つの部分が尊ばれるなら、すべての部分がともに喜ぶ」(同26節)

私たちの現実は、このような高い方にはほど遠いが、そのような弱き私たちが導こうとされている主の御心が聖書に深く刻まれている。

春期四国聖書集会の

感想集

今回の春期四国聖書集会に参加した方々の感想、関連して思ったことを、集会の終了後に送ってくださいました。方々の文を掲載します。

それによって初めてこうしたインターネットを用いた集会をどのように受け止められたかを知っていた

て、今後もこうしたインターネットを使つての集会、祈祷会などがなされて福音の前進につながりますように願っています。

○普段お目にかかれない方々とスカイプで神様を賛美できて感謝でした。多くのご準備ありがとうございました。(大阪市)

○また皆さんとあえる日を楽しみにしています。(千葉県)

○皆さんのご愛労感謝します。(滋賀県)

○スカイプで参加させて頂き感謝！スカイプの接続などでとくにお世話になった吉村先生、数度さん、貝出さん、林さんに感謝！お会い出来ることをいのりつつ。

○厳しい苦難の中で信仰を

(長野県)

守っている方々の証しを聴くことができました。そして、自分がそのような苦難の中でも神様を愛することが出来るだろうかということを考えさせられました。

そして、神様が証しをしていただいた皆さんの信仰の強さを知り、乗り越えられるから、また、神様が乗り越えさせてくださるから、苦難が与えられたのだと思えました。

神様が私たちが愛しておられることを信じ、最後まで耐え忍び、救いを受けるまで、共に祈らせていただきたいと思います。参加させていただき、ありがとうございます。(香川県)

○神に感謝します。

…しっかりとこの集会に耳を傾けられたのは、二日目(日曜日)の午後の証からでしたが、無教会のこのよ

うな集会にこのような形で参加できたのは感謝です。

証をきけてよかったことは、皆さんが神様につながり、神との1対1の関係を深めて主の語り掛けをうけながら神様との生きたストーリーを聴けたことで、みな兄弟なのだ改めて知ることができ、とても心にさわやかで、無教会という集まりに對してわだかまっていた自分の気持ちが決済されました。この機会を与えてくださった神に感謝します。

思いを伝えられたことに感謝します。思いをきけたことに感謝します。無教会の皆さんのことを愛する思いが戻ってきて、主に感謝しています。：今回の集会に招き続けてくださり、ありがとうございました。

この時代だからこそ、主にある家族である皆さんが、

主によって強く導かれ、守られますように。主の恵みと平安がありますように。祈っています。(宮城県)

○二日間ありがとうございました。大変恵まれました。

(茨城県)

○吉村さんはじめ、数度さん、貝出さん、林さん他とくにこの会のために、スカイプの多大のお世話を頂いた方に、心から感謝いたします。

初めてのスカイプ接続による参加で、殊に理由不明の現象が度々か発生して、その都度PCの再起動を余儀なくされ、ご迷惑をおかけしました。

しかし、この春期四国聖書集会に参加して、大変良かったと思っています。

皆さん方の素晴らしい講話や証などを聴くことができ、

恵みに満たされた気持ちで終えることができました。

この度、初めてスカイプを使ってこの春期四国聖書集会に参加できましたこと、心から感謝いたしております。先生をはじめとして、スカイプでの呼び出し担当者の方々からスカイプの使い方について事前に懇切丁寧にご教授いただいたお陰で、立ち上げに少しトラブルが発生したほかはスムーズに殆ど全部に参加することができました。重ねてお礼申し上げます。

4人の方の聖書講話をはじめ多くの方々の「証」、いずれも心に浸みて聴くことができました。

その中でも時節柄、小舘美彦さんの講話が印象に残りました。

また、終了後に数度さんから送られてきました録音も

大変嬉しく思いました。これらをダウンロードして、MP3に変換し、必要部分を短くカットして、知人にメールで添付して送らせていただいております。

浦和キリスト集会ではまだ殆どの方が「スカイプ」というものを使ったことがないと思いますので、これを機会に「主にある交わり」を広める手段のひとつとして、大変役立つものであることを皆さんに伝えたいと思っております。

「コロナ禍」の災いを転じて、この機会にお互いに信仰を深めるための手段として、役立てればと願っています。

この会の開催のために労をとって下さった方々に改めて御礼申し上げます。

(埼玉県)

○路上生活者への伝道をしている東京の超教派の団体に関して、関心がある方は、浅井 asa12361236@gmail.com まで連絡ください、記事や紹介の情報を送りします！参加させていただきます。ありがとうございます。神様の祝福が豊かにありますように！（東京都）

○ネットで、10数年ぶりの参加でした。ありがとうございます！（京都府）

○ありがとうございます。とても恵まれて感謝でした。シャローム（千葉県）

○今回、新型コロナウイルスによる大きな障害がありました。人々の力とは全く異なるところで主が前もって準備されていました。

私も準備されたスカイ集

会に参加できたことにより特別な主の救いにあずかることができ、主をほめたたえ感謝し、主をほめたたえます。

： 大いなる主、讚美されるべき方。
北の果ての聖なる山
高く美しく、全地の喜び。
(詩篇8の2より)

今回のスカイ集会に参加させていただき感謝すべきことが三つあります。

① まず講話者4名に対して、私が受け止めた内容と感謝。

・吉村孝雄兄（徳島）の講話今回の春季四国聖書集会の主題は「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これはキリスト・イエスにある神の御意志。」一

テサ5・16〜18。

私たちが妨げる様々な障害があっても神の真実、キリストイエスにある希望と愛はまったく変わることがない。

・秀村弦一郎兄（福岡）の講話で今回のスカイ集会のテーマである「いつも喜び、いつも祈り、いつも感謝しなさい」とありますが、パウロが私たちに宛てた手紙には祈りと感謝と賛美にあふれていることがわかりました。（フィリピ2の6〜11は賛美。）

・小舘美彦兄（東京） 今回の新型コロナウイルスによる大災害は、神から離れていた私たちが神に帰るために神が意図した「神の愛の恵み」であることをアモ

ス書を用いて的確に伝えてくださった。そして私たちがそがイエス様を通して伝えてくださった。さっている神の

愛のまなざしを輝かす人であるべきことを力強く語ってください。

・西澤正文兄（静岡） 失った三つのもの（病氣、父の死、教師の職）とそれと引き換えにキリスト・イエスの信仰が与えられた。西澤兄の自身の人生の具体的な証を通して伝えてください。またパウロの伝道活動の終盤で囚人となったこと、学びとイエス様が十字架で自らを捨てられた事実を放っておくことができない。ことを力強く語ってください。

② 証をされた方々に感謝します。（北海道、宮城、千葉、東京、大阪、徳島、福岡、で12名）。主から与えられた人生を通してご自身が主から与えられた恵みを証ししてください。

それぞれに与えられた主の導きによる証は他者や書物からの借り物ではなく、語る方それぞれ異なり、オリジナルでした。

主が一人ひとりの人生に生きて働いておられることを強く感じました。

③ 今回のスカイプ集会の計画し、集会進行のための、資料づくり、準備発送などをしてくださった方々に感謝申し上げます。スカイプアプリの使い方を何回も指導してくださり、当日5月9日(土)〜10日(日)の二日間、集会のすべてを下支えしてくださっていた徳島集会の方々には感謝を申し上げます。

各地異なる場所で生活してありますが、キリストは一つ靈は一つを実感することができました。(長野県)

○ 祈り、賛美、感謝―神の導き この二日間で、改めて確信することができ本当に感謝でした。

はじめての方、遠くにおられて会うことも難しい方々とこのようにリアルに交わりを持って、喜びにみたまわっています。長きにわたり、準備のご愛労をしてくださった兄弟姉妹に心から感謝します。また会う日まで神様の守り、導きがありますように。(大阪府)

○ 私もこのようなインターネットを用いる集会に、このような私たち(スカイプ)で参加してともに祈りの時をもてるとは思っていなかったので不思議なお導きに感謝です。

北海道や静岡、福岡からの参加もあつたりして全国の

方が心を一つにしての、お祈りの会という印象で感動しました。今日のことを心深くとめおきます。

とても恵まれた集会でした。参加する機会をありがとうございました。励まされたいと思います。今日午前中資料が小舘さんから速達でとどきました。多くの方にお世話になったことを思い出します。お導きを感謝しつつ：：：ありがとうございます。(徳島県)

○ なかなか二人の育児をしながらゆつくりとお話を聞くことが難しいのですが、スカイプ集会は子どもが泣いても他の方に迷惑かけることもなく、このような形で参加できて良かったです。またこれからも参加できるときはどうぞよろしくお願

いします!(兵庫県)

○ はじめての参加、しかもスカイプ(Skype)での参加でした。事前に送られてきた資料も素晴らしく、講文集、証集、賛美集と全て整っておりました。

Skype参加のルールもわかりやすく説明されていて参加しやすかったです。私にとっては4先生の講話、12人の方の証(あかし)、どれも心に残る素晴らしいものでした。このような大会はその時は気持ちが盛り上がって心は燃えますが時間とともに気持ちが冷めてしまふものです。

しかし今回の集会の講話や証の内容は、手元に残りますのでいつでも読み返し賛美することが出来ます。またSkypeの呼び出しをしてくださったり、陰で働く方々

の奉仕も素晴らしいものがありました。

またSkypeのインストールから根気強く教えてくださった吉村先生、数度さんに心より感謝いたします。100名余りの参加のSkype集会が無事に終えられた事は神様の大きな力が働いての大成功と恵みと喜びでいっぱいです。ありがとうございます！(東京)

○今回の春期四国聖書集会は、聖書講話と証を中心としたシンプルなものでしたが、それがよかったです。

証では、神様がその人にとのように介入なさっているのか、助けて下っているのかがよくわかる内容のものが多く、聖書講話も、よくまとまっています、わかりやすい話でした。

コロナウイルスのためにこ

のような形の集会になりましたが、とてもよかったです。印象に残っている聖句、お話などを以下に記します。
ああ、幸いだ、悲しむものは。その人は神によって慰められる。マタイ5の4

キリストは、神の形でありながら、神と等しくあることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の形をとり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで、従順でした。フィリピ2の6〜8

コロナウイルスは天罰ではなく、今までの人生とこれからの人生を考えるための時間を与えてくださっている。与えられたことを大切にし、今後歩みたいのです。

(神奈川県)

○主の共にいますこと、強い導きを感じました。初めてのことは思えないほどのオンラインによるこれほど大きな集会が守られたことはすばらしいことです。

事前準備や資料、当日の進行などに関わる多大な愛労を主が報いてくださいますように。

どの話者からも、神様の力強い導きを感じずにはおれませんでした。証からは、「自分に敵対する人、自分を苦しめるような人のことを神様は自分よりもよく知っていてくださるので、主に委ね、お任せすること」「いまは万人が聖書を持ち、読めるようになった時代で、誰かと一緒に聖書を読むことの恵み」を思いました。

また講話からは「すべての人がイエスの十字架の苦しみを

とあわれさ、惨めさの前では頭を垂れるしかないのであり、この神のひとり子を通して、私たちの罪の代価は支払われたこと」「アモスの裁きの預言の、いまに通じる深さ」など、多くのことを説き明かしてくださいました。

罪に目を向けて見つめることは大切ですが罪の自覚しか生みません。直ちに神を仰ぐ信仰に固く立ち、イエスを信じる信仰によって神の義を与えられる深い感謝を与えられました。

「ああ、神の富と知恵と知識のなんと深いことか。だが、神の定めを究め尽くし、神の道を理解し尽くせよう。」(ロマ書11の33)

(大阪)

○2日間大変お世話になりました。神様の御守りになり

か110名ほどの参加者が顔の見えないなかで神様の目前に集められひとつになつていた!

終わって見て凄いいことだったのだと思いました。ご準備から最後までお仕事をしてくださった方々のご愛労に感謝しております。

スカイプでの集会を発案された吉村さん、伝道にはスカイプも用いることができることを多くの人たちに表して下さいました。

徳島の数度さん、貝出さん、林さん、皆さんのお陰で繋いでいただけましたこと、本当に感謝でした。

集会のSさん、難聴であることから、電話での受信も受けることができず、送られた今回の集会の内容を印刷した冊子で時間に合わせて読んでいました。

Mさんは小舘さんが受話器

で聞かせて下さいました。Nさんも参加でき喜んでいました。

講話、証、最初に配布されたことで読み直せてありがたいです。本当に行き渡つた集会に改めて感謝致します。スカイプの接続にかかわつてくださった徳島集会の数度(勝)さん、貝出さんの優しさ、お二人の優しさには誰も安心して参加できるのだと思います。(東京)

○今回は初めてのスカイプを用いての参加でとても新鮮な感じでしたが、各地からそれぞれプログラムに応じていろいろな方々の声が聞こえてきて、今年は個人的に現地での集会に参加するのは難しい状況でしたが、それぞれ離れた場所でも共にこうして繋がることできて感謝でした。

今回特に心に残った箇所は、

「悲しむ者は(神によって)慰められる」(マタイ5の4)というところです。

愛する人や身近な人の死の悲しみを何度か経験したことがあり、その時は絶望状態でしたが、前を向く希望の光を与えてくださり、翌年には不思議とその代わり新しい命を神様は与えてくれました。

現在は子育てに追われている日々ですが、外で風が吹いたり、綺麗な花々を見るたび自然と神様のことを思われます。

まだまだ浅はかな信仰ではあるかもしれませんが、神様と繋がっていられるという実感を日々感じることで、こんな私の近くにも神様はいてくださるということに気付いてそれだけでも大きな恵みなのかなあと

思っています。

証の中でも天に召された命を通して、その試練は意味があるといったような内容のお話がありました。私も自身もそれを聞いてその通りだなあと思われました。これからまだまだいろいろ試練に出会うことがあると思いますが、それ自体にも意味があるのだということとを忘れずに、毎日の祈りや与えられているものに感謝して生きていきたいです。

今回の春期四国聖書集会の学びに感謝です!ありがとうございます! (兵庫県)

○春期四国聖書集会に参加できて全国の皆様の声をスカイプを通して聞くことができ、充実した時間がありました。ありがとうございます。

特に心に残ったのは証の時

間でした。それぞれの方の人生が静かに伝わってきて胸がいつぱいになりました。神様がしてくださったことを証と呼ぶんだということすら私は理解していませんでした。

しかしながら、皆さんの神様への思いが感謝と喜びに満ちていたので、苦難の多い人生だけど神様がそばにいてくださることが人を強くするんだなと私なりに理解しました。ありがとうございます。(徳島県)

○多少のトラブルがあったものの、初の体験でした。特に、2日目の、小舘さんの、聖書講話につきましては、コロナに関する多くの報道資料を見ていることもあり、興味深い内容でした。(徳島県)

○3年前の無教会の全国集会のように、サンシャインホテル徳島で一堂に会して行われる聖書集会も素晴らしいですが、今回のように北海道から九州までの各地から呼び集められた人々からスカイプで繋り、心一つにして、み言葉に聞き、共に祈り、共に賛美したこの2日間、多くの人々のご愛労によって全てスムーズに流れたこと、驚くばかりの恵みでした。

真ん中に聖霊様がいてくださってこそだと思いました。今回のテーマ「喜びと祈り、感謝、賛美への道」についての聖書講話を聴かせて頂き、今、世界中の人々を苦しめている不気味なほどにしつこいコロナウイルスが天罰ではなく「主なる神を求めよ」と言う神様の御声であり、この苦しみ、悲し

みを越えて永遠の命へと導こうとして下さっている神様の愛であることを心から信じていることができる喜びです。そして、信じる者であり続けさせて下さいと祈らずにはおられません。また、おひとりおひとりの貴重な体験を通しての証しはそれぞれ深く心に響きました。「祈りを通して、神様の前に悔いることができ、罪はそのまま赦されている平安」と話されたこと、私も時々そのように感じます。祈ることができるとはなんと言う幸いでしょう。本当に豊かな恵みを感謝します。ありがとうございます！(滋賀県)

○このコロナ禍にあつて、Skypeによる聖書集会が実現し、本当に素晴らしかった。初めはSkypeで参加する私

たちには、事前に徳島の皆さんが丁寧に指導してください、安心して参加できるようにしてくださいました。また、集会では、毎回呼び出し接続担当者が本当に御愛労様で感謝するばかりです。

2日目にYさんがなかなか繋がれなかったときに「繋がると信じて待ちましょう。」と見えないところではいろいろなトライをしていたとは思いますが、繋がっている未来を信じて(イメージ)して前向きに待つ姿勢、そして、それが叶うことに感動しました。

講師の皆さんも証の皆さんも、私も伝えたい話が含まれていて、参加のみんなが同じ方向を向いていることを証や感想等により実感しました。

Skypeを使うことで、こん

な状況でも全国から名簿だけで百名、それ以外にも追加で十数名が参加できたことは本当に凄いなと思いました。

参加者同士の交流がもう少しできたなら、また賛美も周りの参加者の反応(歌声)がわかったら良いなあと思いました。(Skypeの特性上、タイム-delayが相当あるので、なかなか難しいですよね。)

また、賛美のリード(伴奏)を1曲受け持ったが、どんな感じ(音量など)で伝わっているかわからないので、ちよつと不安でした。また、凄く緊張してしまいました。また、逆に賛美の伴奏を聞く側からすると伴奏やメロディーが聞き取りやすく歌いやすいことがあまり多くなかったので、私の伴奏も聞き取りやすく歌いやすく

なかったのではないかと思えました。

私はスマホでスカイプを使ったので、スマホの小さいスピーカーに耳を済まして聞かなければならぬため、集中力が必要で、耳が遠くなっている母は、特に疲れた様でした。私も慣れないことだったので、とても緊張して疲れましたが、内容は、素晴らしかったと思いました。

以上。ありがとうございます。
(東京都)

○ネットでの繋がりが上手くいきまますように！祈りつつ参加しました。

少しのトラブルはあったと思いますが、想定内？
録音もしてくださってましたし、感謝のうちに2日間を終えられました。
証を聞いて、あー、会いた

いなあ。賛美を聞いて、直に聞きたいなあ。声だけで繋がった方々に是非お会いしたい気持ちで一杯になりました。

労をとってくださった皆様にも本当にお疲れ様でした。そして、ありがとう！！

(徳島県)

○春期四国集会には、主イエス様の祝福があり、多くの恵みをいただき感謝でした。

これまでの長い準備期間における様々なご愛労を心から感謝申し上げます。

思いがけない状況から今回のようなスカイプを通しての集会用意していただき、初めての方や遠方の方、高齢の方などをも参加され、交わりが持てましたことは予想を超えた主のみ業を思いました。

一日間の内容もさることな

がら、準備に関わってくださった兄弟姉妹の背後に主の力、聖霊の働きがあったことを思いました。

とりわけこの間、吉村さんはじめスカイプホストに携わってくださった徳島の兄弟姉妹のはたらきをつぶさに感じ、本当に主が働かれていますと実感し感謝に絶えませんでした。

弱く小さなところに来られるイエス様の愛を思いました。

どうか、今回の集会において受けた恵みを持ち続け互いに祈りあい、閉会の賛美にありましたように神様が共にいまして行く道を守り力を与えられますようにと祈ります。(大阪)

○春期四国聖書集会に県内外の方とともに参加でき、感謝です。土、日曜日とも

に、多くの方々がスカイプとつながっていましたが、途中で大きく中断することなく、時間通りに進められたことを背後にえられる神さまに感謝します。

共催のキリスト教独立伝道会の方々、小舘知子さん、西澤正文さん、そして徳島聖書キリスト集会の吉村孝雄さん、数度勝茂さんと貝出久美子さんはじめスカイプをつないでくださった方々、電話や家を提供してつないでくださった方々に感謝します。

たので、心を合わせて進められたことと思います。

今回のスカイプのグループ通話は音声だけになりましたので、顔が見られずに残念でしたが、証をされているお一人お一人の声の抑揚が身近に感じられました。

会衆一同で賛美できませんでしたが、プログラムの合間にソロ、デュエット、オカリナ演奏、ギター演奏、ウクレレ演奏、録音を用いたものといろいろな形で賛美を聞かせていただき感謝でした。

3月からスカイプを用いた主日礼拝や夕拝、北島集会や海陽集會に参加され、慣れないスカイプの操作を覚えることも大変だったと思います。コロナウイルス流行が収束するまでまだ自己粛生活やスカイプ集會が続きますが、お一人お一人に

神さまのお守りが続きますように。(徳島県)

○北海道から九州まで全国の方々つながり、共に御言葉を学び、祈り、賛美するときを与えられました。

インターネットによってこのようなことができるのだということに驚き、感動し、感謝しました。

一日間にわたり、多くのことが心に残りました。そのなかの二つをあげたいと思います。

まず一つは、「いつも喜べ。絶えず祈れ。どんなことにも感謝せよ。これこそ、キリスト・イエスにおいてあなたの方にのぞんでおられることである。」

「ああ、幸だ。悲しむ者は、その人は(神によって)慰められる。」

「あなた方はひどい苦しみに

の中で、聖霊による喜べをもつて御言葉を受け入れた。」

「希望の源である神が、聖霊の力によって希望にみちあふれさせてくださるように」

これらの御言葉を引用して語ってくださった講話です。

いつも喜んで、絶えず祈る、どんなことにも感謝する。それは悲しむ者を慰める神がいてくださり、神よりの聖霊が働いて、闇と混沌のなかからでも、喜びが希望へと導いてくださることにすると語られました。

弱い私ですが、主のお助けを祈りつつ、いつも喜び、絶えず祈り、どんなことにも感謝する、そのようなあり方に近づけるよう、主を仰ぎ、聖霊を求めていきたくと思います。

もう一つは、「忍耐して待

ち望む」と題して証しされた内容において、主にある生を全うされた最晩年の女性のことを語られ、最期のとき、どのような状況にあっても魂の平安が自分の中に存在しているようにと祈り求め、そして最期まで、主に委ね、「永遠の命」を信じ、希望をもって歩んでいきたいと話されたことに共感し、心に残りました。

自宅にいながらにして、多くの方々のお交わりを与えられ、豊かなお恵みをいただきましたことを感謝します。(徳島県)

○主の御名が「聖」とされますように！

春期四国聖書集会は、おととい、昨日だけでなく、昨年の秋から祈って、ご準備をして、本当にスカイプから、配布物から至れり尽せ

りで、それによつて、本当に神さまからの聖霊に満たされて恵み豊かなひと時、主にあつて、一つ思いになつて神さまのみことばを受けられる恵みに心から感謝しました。有難うございました。(宮城県)

○5月9日、10日、今回の集会は緊張しながら迎えました。

土曜日は、孫の世話もしてありますが、この日は、孫の母親に仕事を休んでもらい、孫を見ないでいいようにしてもらいました。

きつと神様が、孫の母(長男のお嫁さん)も守り祝福してくださると信じて頼みました。

お嫁さんは快く引き受け、仕事を休んでくれました。それで、朝から気持ちを集中することができました。

うまくつながるだろうか。そればかりが心配でしたが、でも、神様が最善をなしてください、最後にはみんな、主に感謝をささげることができ、そのイメージを与えられ、信じて進むことができました。

準備の段階からも恵みがあり、神様がさせてくださったと感じました。講話、証、賛美。どのプログラムにも主が共にいてくださったことを思い、主に感謝しています。(徳島県)

○今回、初めて春期四国聖書集會に参加させていただきました。参加のきっかけは徳島聖書キリスト集會月刊誌の「いのちの水」です。

2020年3月号に吉村さんが、新型コロナウイルスのため、主日礼拝などを徳島市の集會場に集まること

はしないで、代わりにスカイプを用いての礼拝をしている、この際スカイプを使えるようにしたらよいのではと書いていただきました。

それで、集會には参加したことがありませんでしたが、今年3月からスカイプによる徳島聖書キリスト集會の主日礼拝などに参加させてくださいました。

スカイプの音声のみの使用で、移動の負担もなく参加できて、ともに祈り賛美し御言葉を聴き、新たな恵みをいただいで感謝しています。

そのようなことで、今回のインターネットなどによる春期四国聖書集會にも参加させていただきました。本集會は、7人の方の祈り、11曲の賛美、4人の方の聖書講話と14人の方の証、い

ずれもとてもよいものでした。

いました。神様の恵みがあ
りますように。(香川県)

ようにお祈り申し上げます。
シヤローム (関東地方の方)

秀村さんのピリピ書2の6
〜11。絵画が鮮明にコピー
されて、写真御効果を思わ
せられ、毎日絵画を見てい
たらきつと十字架の苦しみ
はわがため、と思われ感謝
も深くなるかもしれませ
んと。

特に、厳しい苦難の中で信
仰を守っている方々の証を
聴くことができました。自
分がそのような苦難の中
でも神様を愛することができ
るだろうかということ考
えさせられました。そして、
神様が証をしていただいた
皆さんの信仰の強さを知り、
乗り越えられるから、また、
神様が乗り越えさせてくだ
さるから、苦難が与えられ
たのだと思いました。

〇四国までは行かれませ
んで、今年のようにスカイ
プで参加できたことは神様
のお恵みと有り難く感謝し
ております。

〇百名余りの方々が全国か
ら集められて顔の見えな
い中でスカイプを通して、
神のみ前に一つになつてい
た!

小館さんのコロナウイルス
とアモス書の関係。世のど
んな状況も、過去現在と続
いている状況でありその答
えはいつも聖書にありと教
えられます。

スカイプの輪が広がってほ
んとうに嬉しいです。
これからもよろしくお願
いいたします。

私の信仰も違っていました。
距離的にも時間的にも本
当に有難いツールです!!
自宅に居ながらにして離
れた方々と礼拝、感話等のお
交わりが出来るとは!

終わってみてすごいことだ
たのだと思いました。こう
した伝道も可能だったとは、
今の今まで誰も気が付か
なかったことです。今回の発
案は神様がなさせた御業と
思い神様を賛美しました。

ひたすら神に帰れと。その
声をいつも聞き取って行か
ないと、この世の人のよう
に慌てたり怒り、不安な
だけで平安は得られないと思
います。

神様が私たちを愛しておら
れることを信じ、最後まで
耐え忍び、救いを受けるま
で、共に祈らせていただき
たいと思います。

なんと大いなる恵み…と感
謝、感謝です。

吉村さんの御講話はテーマ
そのもので、聖霊が与えて
くださる喜びは、悲しみや
苦しみを通して実感できる
ことだと痛感しました。

西澤さんの講話は自分を捨
てなさい、と。十字架のイ
エスに倣ったパウロ。捨て
るとは自分がゼロになるこ
とだと思いました。

御言葉をお聴かせいただき
た皆様、ありがとうございます
ました。また、スカイプと
印刷物の労を執っていただ
いた皆様、ありがとうございます

毎々スカイプの中継のご愛
労をしていただいているお一
人お一人に神様のご祝福と
お恵みが豊かにございます

皆永遠の命へ導かれる神の
ご計画の中で生かされてい
る、私たちはただキリスト
を信じるだけ、との励まし
をいただきました。

とだと思いました。

また、多くの方々の証しを聞いて、それぞれに神様が導いておられるのが分かり、生きて働いている神を賛美しました。

スカイプによる集会においても、語ってくださる方は目の前で語ってくださっているのと少しも変わりなく拝聴しました。

日頃、徳島聖書キリスト集會に、折々にスカイプで参加させていただいて慣れていくからかもしれません。目の見えない方は場所がどこであろうと、霊の耳だけで聴いておられます。私はそのことを思いながら参加させていただいておりました。

今回この集会のために多くの方々のご愛労に心から感謝いたします。

証しについて：それぞれに神様が導いておられるの

が分かり、生きて働いている神を賛美しました。

今回この集会のために多くの方々のご愛労に心から感謝いたします。(東京都)

○今回、スカイプをテレビ大型画面に接続し、大きな音量で清水聖書集會の多くの兄弟姉妹と共に参加できました。何か不思議に思え、しばらく「これ本当の事なの？」と思いつながら耳を傾けました。

百名を超える人々をインターネットで繋げ一つの聖書集會としてしまうスカイプの力を感じました。

今回のように四人の聖書講話、十二人の証しをお聞きするのは初めてという人が多く、初めから終わりまで集會全体が新鮮で刺激的な空気に包まれました。

一日間の集會が終わり、数

人から感想をお聞きしましたところ、礼拝でお聴きする機会が余りないためか証しがよかったという声が多かったです。以下、感想を紹介いたします。

・特に証しでは実体験をお聴きでき良かったです。

・想像もできない大きな困難や悲しみに直面し乗り越えた人、犯した罪に押しつぶされそうになりながらも神様にしがみ付き苦しみに打ち勝った人を知り、刺激を受けました。信仰の素晴らしさを感じました。

・信仰の世界の広さ深さを改めて教えられました。

・これからの信仰生活の励まし勇気を与えられ、希望が湧いて来ました。これからも色々な人の聖書講話、証しを聴いてみたいです。

○2月の終わりに、徳島聖

書キリスト集會では、集會場での礼拝は新型コロナウイルスの為に休止すると聞かされた時には驚きました。

どこで神様を礼拝すればいいの？ 信仰の弱い私はい人ではダメ、無理と思いましたが、心配だったけれども、3月からは、スカイプで主日礼拝や家庭集會が継続される事を聞いてホッとしました。スカイプは本当にありがたいです。

でも、やはりみんなと集まり讃美をし、祈りに心を合わせたいという気持ちはあります。

今回の春期四国聖書集會の録音を聞いていても思う事ですが、二人三人集まる所にわたしもいると言われています。本当にその通りです。

今回の春期四国聖書集會、遠く離れている人たちであつ

でもインターネットという手段で靈的に集まり、み言葉を聞けて讚美が出来る事が感謝でした。そしてスカイプの労とつて下さった方々にも感謝。(徳島)

○吉村さんの講話を聴いて、春期聖書四国集会のテーマ「祈り・賛美・感謝ー神の導き」を考えさせられました。

このテーマのための聖句が…「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」(1テサロニケ5の16、18)

この聖句が、神様が今も生きて働いていらつしやる、という大前提のもとでの聖句であるということ。

だから、ロマ書8の28の意味する、神は全能だから、必ず善き(ポジティブ、プラスの思考・態度)に導い

て下さるということを教えられました。

聖書を読んでいくと、わからないことがあります。そんなときは、福音(十字架と復活)と福岡の秀村さんが示して下さったフィリピ2の6、11「キリスト賛歌」に立ち帰ってみると良いと思います。

小館美彦さんが提示されたアモス書を通して、神様に立ち帰らない(神様を愛さず、隣人を愛さない)ことが、この世にあつて重大な問題を引き起こすことを教えられました。マックス・ウェーバーが、「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」の行き着くところ、それは最初は良いものであつたが詰まるところ、人間は心を失つた人形のようになるということを思い出しました。

西澤さんの講話からは、改めて「愛を、心を注ぎ出す。」ということを考えさせられました。「注ぎ出す」とはどういう意味か?調べてみると「全部を与えること、内側を空っぽにすること」だそうです。神へ心を注ぎ出すことによつて、神から

又イエス様から、自分の心へ代わりの注ぎを与えられ、感じる事が出来るようになる。この繰り返しが信仰を強めるのだと思ひました。

講話と証を聴いて、思ったことは、このスカイプ集会のテーマは「神の愛と赦し」と関係があるということとです。

神の愛と赦しは、福音(十字架と復活)とキリスト賛歌にあると思ひます。隣人愛は、マタイ7の12「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人

にしなさい」ということだと思ひます。ただし、小館知子さんの証から感じたように、「自分に出来る範囲のことをやる。」無理をすると自分のメンタルヘルスに危機をもたらすということとです。

マタイ18の22「7の70倍赦す」、マタイ6の14、ルカ6の37でも「赦す」と聖書には書いてあります。

人間に「赦す」ということができるのか?

私は「***」を赦すと何回も声に出してみたり、またノートに繰り返し書いたことがあります。しかし、無駄なあがきでした。「赦す」ということに関しては、自分の行動だけでは、ネガティブ(マイナスの思考・態度)な感情には勝てない。イエス様(十字架)を仰ぎ見て、またすがりつく思い

で、「赦せますように導いて下さい」「悪が取り除かれますように」と祈ることしか出来ません。

今回のスカイプ集会で思ったことは、「資料付き」がとてもありがたかったことです。

普段の集会では、講話や証の内容を自分でメモをとり、それを見返して復習します。どうしても書き落としが生じます。今回は、聴きながら、ここが修正されているな、と直ぐに書き込みが出来ました。しかもそれを何回も見返すことが出来ることが非常に助かりました。

携わった方の、それぞれの労苦を感謝します。今も生きて働いて下さる神様に感謝します。(東京都)

○春期四国集会にスカイプで参加できましたこと不思議

議です。文書参加でしたので、はじめ一人で祈りつづめたのですが、吉村先生から電話を頂き、皆さまの語る言葉で証言をお聞きできて、人と人との交わりの大切さを身にしみて嬉しく実感しました。

先生の励ましで無我夢中でスカイプに挑戦し、二日目は証言と閉会式までをスカイプで、主人と一緒に聞きました。皆さまの生き様から溢れる真摯な語りかけに、福音の受容の豊かさと同様性を思いました。

イエス様から頂いた恵みは独り占めにしないで、周りにあふれさせてゆく場として、今回の交わりが用いられている事を感謝しました。

主の御臨在を信じながらも、あまりにもたくさん情報のないなかで、自らの平安を見失ないがちの中で、この様

な皆さまとの交わりを感謝いたします。

神さまはどのような事態になっても、そこから思いもかけない様々な手段を使つて、福音の喜びと感謝と平安をもたらして下さいるお方だとしみじみ思います。

身体がインターネットの世界についてゆけず、その速さにもついてゆけず、身に着いていません。いろいろとご迷惑をおかけしました。じつは昨晚それでもご返事をとと思い、Zoomを開きましたら海陽集会からのお誘いが入っていて、5月19日

(火)の夕拝における先生のペテロ前書のご講義を聞くことが出来ました。創世記からヨハネ黙示録まで聖書一卷ー私を仰ぎのぞめ、信ずる者は誰でも救われるー

という福音の根本が書かれている事に、改めて聖書

の偉大さ、深い真理性を思いました。

毎月第二火曜日10時、海陽集会を覚えて参加させて頂けるよう祈っております。

(長野県)

○私は難聴者でスカイプの声が聞こえないので、戸川さん宅で中本さんに手話通訳をしてもらいながらの間接的な参加でした。

印刷物を見ながら一人一人の参加者を身近に思うことが出来て感謝でした。

様々な災害、コロナウイルスを通して神様は裁くためではなく、神様に立ち返って、神様を求めて生きよと言われている。(アモス5・14)目を覚まして感謝を込め、祈り続けよ。(コロサイ4・2)これらの聖句が講話とともに心に残りました。

(徳島県)

○私は、聴覚障がい者のた

め、スカイプの音声が届き取れないので、印刷物参加でしたが、詳しく細くくなされた御配慮によってスカイプの方々とは何か一緒に参加できたこと思い、感謝でございました。

この世のすべての出来事は神様の意図が働いているからいつも神さまに立ち返り主を求めていくことが大事なんだと思わされたのが心に残っています。感謝して…。(徳島県)

○インターネット(スカイプ)を利用することによって、計画が護られたばかりでなく、会場に足を運ぶことが不可能な方々も共に主の祝福に与ることが出来たことは感謝でした。

主題にふさわしいプログラムが生まれ、充実した2日間であったと思います。特

に「証」の数々を拝聴しながら、これは福音書に満載されているイエスの奇跡物語の現代版だと思いました。

生けるイエスは二千年前と同じようにみ業を顕してくださっているのですね。参加者皆さんの心を主が高く挙げて下さったこと、その素晴らしさを賛美し、感謝したいと思います。

プログラムを組み上げ、進行して下さった吉村さんを始めとする皆様、またSKYPE接続にご愛労くださいました。(福岡県)

○幸いに満ちた2日間

3年前脳出血、その1年後脳梗塞を発症。10か月の入院生活と、自宅生活。10か月の介護施設での生活をへて自宅に戻り2か月目になります。右半身麻痺で杖で

の歩行練習の日々。生活は車椅子を使っています。

脳梗塞の後遺症で、海馬に高次機能障害と言う記憶障害があり、短期記憶が曖昧な時があります。

それが自覚できたのはごく最近で、どのような記憶が曖昧かまた時系列はどうなっているのか、など自覚できる限りではまだ明らかでない点が多いのです。

こういう私に、信仰はこの3年間不安定でした。空白の思考を抱えて何日も祈れない時があったりしました。今回はそういう時もたまにある状態の中での集会でした。出席したい思いと、徳

島までの長い距離を飛行機など乗り継いで行っても疲れるだけかとも思い、出欠の結論も出せないでいたところ、オンラインでの集会となり、私にはありがたかつ

た。

電話でスカイプからの音声を聞かせていただいたの参加だが、皆さんと会場にいるような気がずつとしていた。それはとても熱気のある暖かい一体感だったと思う。

記憶として残っているのは2日間の半分くらい。でも、欠落部分は送って頂いた文書で確認できました。その暖かさはいまだに私の中に残っている。

皆さんと直接会ったというより、見える姿に邪魔されない霊的な邂逅があつた2日間続いていたのかもしれないと思う。

イエス様がそこに来てくださって喜んでくださっている、嬉しい霊的な出会いに満ちていた。

そのような集会を準備してくださった沢山の方々にも

参加された方々にも深い愛の絆を感じつつ、感謝しつつ、次の邂逅を楽しみにしています。(東京都)

○今回の春期四国聖書集会のためにスカイプデビューしました。スカイプでこれほど恵み豊かな集会になるとは思いもしませんでした。スカイプ接続をご指導下さった徳島聖書キリスト集会の方々に感謝です。(神奈川県)

○自分が年だからスカイプは出来ないとかきらめていましたが、いろんな方が積極的にスカイプに参加されてびっくりしています。

スカイプで講話を聴き、証を聞き、賛美を聞いたりしている時に胸が熱くなりました。そして自分の信仰の弱さにも気付きました。

スカイプの音声だけの集会では、顔が見えないけど一人一人がつながっていると思えました。神様が共にいてくださったと思います。スカイプ集会に参加できたことを感謝します。

(徳島県)

○スカイプ (skype) ならば、体が不自由で会場まで行けないとか、子育て中だから本来は行けないけど、部分的にでも自分に合わせて参加することができるといった、良い面もたくさんあると思います。(京都府)

○印刷物による9日、10日の集会への参加、誠にありがとうございました。全く思いがけず、両日とも後半を電話にて拝聴できるようにしてください、何と云って感謝していいかを知りません。

神様が聖霊をもってそのように導いて下さったのです

ね。それにしても、私のような者にと、主の愛のすばらしさに胸を打たれました。

届いた資料によれば、印刷物参加者も30名近くおりました。(申込後にスカイプができるようになったり電話接続などで最終的に印刷物だけの参加は約20名)

その中のわずかの者がその恩恵に与った筈。何とかしてスカイプで参加すべきを努力を怠り、西澤さんを通しての証の要請にも応えられず申し訳ない思いでおりました。：ただただ感謝でした。

いただいた資料も実にていねいで分かりやすく、これなら時間を守って讚美と祈り・感謝を全国の皆さんと共にできると心から喜び、主の栄光が上がりますようにと祈りつつ参加させてい

ただきました。

音声を携帯電話で聴けるようにして下さる前は、参加申込者に送付されてきた印刷物(集会の講話や証し)を用いて、聖書講話や証し妻と交代で朗読させていただき、余った時間は再読したり、引用された聖句を拝読しました。今回用いられた讚美歌は皆知っていましたので、前もっての練習はしませんでした。待機の時間に歌詞をゆっくり読み、楽譜下の参照聖句を聖書を開いて目を通したりしました。讚美は祈りだと思わっています。一つ一つの讚美歌も、本当に選ばれた歌われた方の信仰の証だなあと、つくづく感じました。

新型コロナウイルスという、予期せぬ、また想像を絶する世界的な禍が、徳島市での春期四国聖書集会の

開催をインターネットや印刷物の参加という変更となりましたが、各講話はみ言葉を通して、それぞれにどう捉え対処するべきかを明示して下さり、深く感動いたしました。

たくさんの方々の証しをされた方々もそれぞれに真実な神様、主イエス・キリストとの出会いと導きの貴さを深い感謝を込めてお話し下さいました。神の導きのいかに奇しきことかを思い、心から感謝でした。

最後に、集会をこのような形で実施して下さり、深甚の感謝を申し上げます。吉村先生や徳島の皆さん、キリスト教独立伝道会の方々の主への愛とそれを伝えることが何より大切なのだと思いを確信し実行されている姿に胸を打たれました。做います。

本当にありがとうございます。主にある交わりと祈りが深まりますように願って参ります。お一人一人に、主の豊かなねぎらいと祝福をお祈り申し上げます。

(鹿児島県)

○岩手から徳島までの旅行は今の私たちには無理でした。スカイプの設定など全部、子供の協力また、兄弟が徳島集会の方とつなげてくれました。

当日、まごつかないように、スカイプ画面の緑の受話器のアイコンをクリックしたり、ミュート(マイクから音声が入らないようにする)にすることなど、数度(勝)さんにていねいに教えてもらい、また多くの参加者を一人ずつつなげて下さるご苦労にも感謝です。

地理的に離れていても、目を閉じて共に祈ると、同じ

部屋に居るようでした。体力的に大変だった夫も、疲れたら横になることができました。(岩手県)

○スカイプで集会をするこゝとで、普段は集えない人と出会うことができるのを実感しました。どんな時にも、どんな所にも、主の恵みは備えられているのだと勇気を与えられ、感謝です。

(大阪府)

○今回の春期四国聖書集会在、徳島市の会場に集まるのでなく、スカイプで行われることと、新型コロナウイルスの影響がこのような形になり、どうなるのだろうと心配でした。

自分自身がパソコンには不得手でしたから。

でも、二日間を通して遠くに離れた主にある方たちとも音声での聖書メッセージ

や証がとても聞きやすく恵みをいただきました。

それぞれの信仰からあふれるみ言葉と証はそこに主がともにいて語らせて下さつて、遠くに離れているのに霊的には近くにあつて心を一つにできて聖霊が働いて下さつたと感じました。

途中で私のパソコンが不具合を起しましたが、再起動を待って待っていたら呼んで下さってまた参加することができてホッとしました。

今の困難な時代だからこそ、そこに主が伝道のために必要だとスカイプを通しての集会を起こして下さいました。

多くの人の、祈りがこめられ主の導きがあつて最後まで守られたのだと思ひ、こんなに良きようにして下さいました。主には感謝し、また

背後でスカイプの集会のために祈りつつ準備やフォローをしてくださった方に感謝します。(徳島)

○新型コロナウイルスの影響により、ワーキングホリデーでオーストリアに行く予定だった長女と期せずして中学卒業以来の同居生活が与えられました。また、自分にとつても普段は土曜日も一日仕事に追われていた生活が変化し、今回の集いに二日に渡り参加することができました。

仕事に追われていた毎日から、一時ではあります、立ちどまって生活を振り返る「とき」が与えられました。そこから感じることは、何らかの神様からの問いかけだといえます。

今回のコロナ禍で思い浮かぶ内村鑑三が関東大震災後

に残した文章が次の内容です。

「天災は読んで字の通り天災であろう。すなわち天然の現象であろう、地震は地層の波動であろう、噴火は地熱の放発であすう、これに何にも怪しむべき所はあるまい、天災に意志もなく道理もあるまい、従つてこれは神の刑罰ではあるまい。しかしながら神は無意識の天災を刑罰の道具として使ひ給う。天災が悪人の上に墜ちきたれば、これ即ち神の刑罰である、悪人は既に神にのろわれたる者であるから、天災はその呪いを実にする、しかり、天災そのものは刑罰ではあるまい、しかし、悪人がこれに遭遇すれば天災は確かに天罰である。

しからば義人がこれに遭遇すればいかにと問う人もあ

ろう。しかり、義人がこれに遭遇すれば天災は天罰ではなくして善き試練である。「天災と天罰」一九〇六年」

今回の聖書集会の様々なお話の中で考えさせられたことは、「神様のもとに立ち帰る」、「神様と隣人への愛」ということでした。

すでに、また忙しく仕事に追われる日々が始まっていますが、今回与えられた「とき」から「この主イエスの言葉は暗夜の星のように浮かび上がって」きたと言えらるるよう、その問の答えを少しづつ見つけていきたいと思ひます。ありがとうございました。(宮城県)

○今回は、世界中に広がっているコロナウイルスの関係で、初めての試みで電波を通してのスカイプによる、春期四国聖書集会でした。

今残っているのは、証では一人一人が神様に出会う前に体験した事やまた神様に会ってからのことや、試練に合われたことを話され、皆よかったと思ひます。西澤さんの話しの中の証が残っています。

毎朝、祈りの前に読んでいた本が読み終わったので、最近読み始めた、「生き方を変える聖書のことば」を読んでいます。

私は、あなたのみおしえを喜んでいます。苦しみに合つたことは、私にはしあわせでした。

このことばと共に、一人一人、心に平安を受けたことと思ひます。私も試練にあつたり、しても神様を仰いでいると、心に平安がありません。暗闇と思つても待ち望めば光に導いて下さることを信じて、祈り、讚美し、

感謝して歩んでいけますように祈ります。(徳島)

○初めての春期聖書四国集會が、新型コロナウイルス感染症予防のため、参集して開催できないため異例のスカイプによる集會となりました。

このコロナウイルスによって、人と人が離れて接したり生活しなければならぬ。また、医療が発達している先進国、特にアメリカが最多の感染者が報告されています。このことを通して現代社会の在り方を神様が問われているようにも思われます。

今回の集會は、それぞれ遠く離れた地にいる兄弟姉妹が、スカイプによって神様というお方を求めて、互いに身近さを感じながら繋がることのできた会だと思

いました。

この世的な歩みは、人間関係を希薄にさせているようにおもいますが、神様に歩むことは深い繋がりをもてるものだと思います。

今回は証が多くあり、それぞれの住まいから讚美なども入れて話され、日常の中の皆さんの進行の歩みも想像しながら聞くことができました。二日間を聞くことだけで過ごすには、たいへんかなと思っていました。内容が充実していたために、あつと言う間に日程が終わったという感じがしました。(徳島県)

○先日の春期四国聖書集會では、スカイプでの参加をお勧め下さり、実際に時間をとって、やり方もいろいろ教えて下さって、おかげさまで、スカイプ参加がで

きて、皆様のお話しや賛美を音声で聞かせていただき、心から感謝でした。

お世話くださった徳島聖書キリスト集會の皆様はじめ各地でご奉仕下さった方々のご労によって、全国のクリスチャンが、スカイプで心をあわせてみことばを学び賛美するすばらしい体験をすることができ、大きな集會もこういうやり方もあるのだと大変参考になりましたし、大きな感動がありました。

とくに、吉村さまの聖書からの講演で、第1テサロニケ5の16〜18のみことばは、困難のただ中から生み出されたことばであることとを伺い、私はこれまでこのみことばの、「いつも喜べ、どんなことにも感謝せよ」は自分にはできないと感じていて、ある困難な問

題に繰り返して直面し、もうこの世の自分の命が終わりになって、天に帰れたらどんなに楽かと思つたこともたびたびでした。

でも、今回の聖書講話で、人間の信仰はいつまでも続くかというところがいけれど、神様の真実はいつまでも続き、神様への信仰をすてない限り、今の困難もよきにつながると信じていけば、信仰は私達がすてない限り、いつも喜ぶ道がついてくる。

どんな困難や苦しみ、悲しみがあつても、愛する人が死んでしまつても復活の信仰があるなら、喜び、感謝が続くことができる、困難や苦しみをすべてが転じて良きになる、それは神様が愛であるから、又聖霊さまがかげで祈って下さっているから。

「いつも喜べ」は、聖霊さまが働いて下さるとき、可能となる。たとえ病床に伏すようになっても、祈りの時間はいつそう与えられ、神の国がいつそう近くなるであろうと希望し、信じることができる、このように信仰(神の真実)、希望、愛はいつまでも続く。と伺い、いつも喜べ、感謝せよということが自分にはできないことではなく、愛なる父なる神様とイエスさまと聖霊さまによつて、自分にもできることだという思いが与えられ、心に喜びと感謝が広がっていくのを感じました。

本当に、この集会に参加させていただいたことを感謝です、ありがとうございますました。

徳島の方々の話しかたは、徳島独特の抑揚があつて、

それは何かなつかしい温かさがあり、わたくしはとてもしなさい。神様から愛を頂いて、自分のできる範囲でなすべきことをしなさいと言われているのだという気持ちで湧いてきました

(茨木県)

○いろいろな思いがけないことが私の短い人生で次々と起こり、不安や恐れ、心配する心が毎日襲いかかってきます。それでも聖書の御言葉から平安をいただくことができています。

そんな中で全世界に起きた神様からの新型コロナウイルスに關するメッセージ、その意味は何だろう。

神様が何らかの深い目的をもつて起こしているのだと

心で信じているのですが、この春期四国聖書集会に参加して、より強く神様の聖霊の風が吹いていること、今生きて働いておられるイエス様がおられる、だから安心

祈りを一人でスカイプで聞いていました。孫や家族にも伝わりますようにと願いつつ…。

聖書の講話、証し、賛美、

何にも気取らず、気を使わず、神様を信じてる人たちとともに聖書、神様の御言葉を聞き、その一人一人の神様の導きを自分と照らし合わせて神さまの不思議な導きを一層思い本当に感謝の二日間でした。

一つ一ついろいろな感動がありました。

素朴な賛美、なんか今回神様への素朴な(信頼と感謝)のできる集会だったような気がします。

このような集会にも、いろ

いろな事情のため、なかなか参加出来ない人たちが参加できますように。夫も参加できますように。

神様に感謝します。ずっと祈り続けてくださった母に、そして導いてくださった方々に。(徳島県)

○天の父なる神様、この春季四国聖書集会にお導きくだされたことを感謝申し上げます。そして集会運営された皆様方にお礼を申し上げます。

徳島の吉村先生はじめ福岡の秀村先生、東京の小舘先生、静岡の西沢先生、日頃お会いすることのない諸先生方の聖書講話を拝聴し、学び、そして多くの皆様の証に胸を打たれ神様のお導きをありがたく我がものいたしました。

賛美の歌は神様の呼びかけ、

愛を私達にくださり、日々生きる糧となります。演奏や歌われた方々の声は、朗々と歌う歌手の声とはまた異なり、優しく心に沁みましました。

前半9日(土曜日)の4時間、後半10日(日曜日)の3時間の充実した時を過ごして喜びが胸いっぱいです。

私も証しをさせていただきました。その中にマタイによる福音書7章7節から12節、「求めなさい。主を信じ、主に祈り求める者に天の父は良いものを下さるに違いない」とあります。

私はすでに多くのものを神様から頂いております。人生の晩節に臨んで、このように多くの心許せる友と与えられ、喜びを共に語り合いい、イエス様の話に時を忘れることもしばしばで、祈り感謝し、一人暮らしの心

細さは心豊かな日々に変わりました

この度の新型コロナウイルスによる影響のもと、ありがとうございました。

集会場での集まりができな
い昨今、スカイプによる集
会となりそれまでは従来の
ガラケーの私もスマートフォンに切り替えることになりました。

しかし買い入れをするにもパソコンで！品物が届いても初期設定など、戸惑うことばかりで、お手伝いくださる方がいてやっとなんとか自分で使うことができ
るようになり、4月26日の
主日礼拝にSkype参加いた
しました

神様が繋いで下さった集会の友がいなければ、私だけではできないことでした。

数度さん宅での海陽集会和
か他の家庭集会にもSkype

でなければ遠くて参加できない集会にも参加できて嬉しいです。皆様宜しくお願
い致します。神様、感謝致
します。(徳島県)

○このたびは、春期四国聖書集会に思いもかけず印刷物による参加をさせていた
だき、また電話を用いても
集会に部分的にご一緒させ
ていただきましたことを、
ありがとうございます。

時間が経つにつれて何とあ
りがたいことかと思わされ、
上よりのお恵みに間信仰し
ています。

吉村様はいつも兄弟姉妹
(二人、三人手も)共に祈
ることの大切さを語られて
いました。今回の集会も主
性によって集まることの重
要性をあらためて思い起
しました。

「ローマ書の研究」(角川

文庫、内村鑑三著)を読ん
でいましたら、次ぎのよう
に集まりの重要性が書かれ
てありました。

「Iコリント3の16と17：
には神の宮なる句が三度用
いられている。：この個所
においては、あなた方の一
人一人がそれぞれ一つの神
殿であるというのでなく、
あなた方すべてで一つの神
殿を形作っているというの
である。

ぶどうの木はその幹を離れ
るなら枯死する。人の体の
それぞれの部分も同様であ
る。枝にしても体の部分に
しても生きるためには、そ
の本体につながっていない
ればならない。

聖霊は、集まりの上に降る。
兄弟姉妹の集まる場所に
この神の宮は成り立つ。そ
れゆえに聖霊をうけるため
にはこの神の宮の一部とな

らなければならぬ。：ぜ
ひととも兄弟姉妹とともに一
団となってその中であつて
聖霊の雨を浴びねばならな
いのである。」

ほかに、詩篇¹³³、使徒言
行録2の1、13、ヨハネ福
音書15の1、8などの御言
葉もいよいよ深く味わわさ
れる思いです。

お送りいただいた、資料集
の聖書講話、証しを自分の
心と合わせながら読ませて
いただきました。用いられ
た讚美歌はほとんど若いと
きから親しんできたもので
した。うれしく存じます。
コロナウイルスの蔓延で、
今年は夏期に集会を持てま
せんが、願わくば来年もま
たキリストの集会、お交わ
りをさせていただけますよ
う、願っています。(山形県)

○とても有意義な集会でし

た。音声しか聴こえない分、
話されている方や楽器を演
奏している方の姿を豊かに
想像することができました。
対面では会えなくても主に
あつて繋がっていると感じ
ました。小舘美彦さんのア
モス書からの講話が特に印
象に残りました。ステイホー
ムで時間を手に入れた私た
ちがなすべきことはまさに
神様との対話ですね。

小舘美彦さんは内村鑑三の
思想のエッセンスが要約さ
れている「ジャパン・クリ
スチャン・インテリジェン
サー」の訳を出版されてい
ます。YouTubeでこの本につ
いての解説(CGTV)のイン
タビューを観られるのでお
勧めです。

2日間にわたるSkypeの特
別集会の恵みは開催期間中
だけに留まらずその後も良
き連鎖を展開します。Skype

集会に参加させていただきつ
た神様を賛美します(愛媛県)。

○スカイプで参加できない
人のためにも細やかな心遣
いしてくださり有難うござ
いました。ご愛労感謝しま
す。

次は、今回の集会で、心に
残ったみ言葉です。

「目を覚まして感謝を込め、
祈り続けよ。」(コロサイ4の2)

「いつも喜べ、絶えず祈れ。
どんなことにも感謝せよ。」
(1テサロニケ5の16、18)

今回は新型コロナウイルス
のために、スカイプでオン
ラインでの集会となりました
が、参加できて良かった
です。

こんなに多くの人とスカイ
プで共に学べて感謝でした。
お一人お一人の証も良かつ
たです。(徳島県)

○北海道はまだ厳しい制限
が続いたまま、先の見えな
いままひっそりと桜が咲き
ました。

春期四国聖書集会、今の状
況の中で 徳島の会場に集
合できた時と全く遜色なく、
またそれ以上に意味のある
二日間でした。

徳島の皆さんが、一人でも
多く方が参加出来る様にと
一人一人に機器の対応にも
：皆さんのご愛労に言葉
に尽くせぬ感謝です。あり
がとうございました。

各地のたくさんの方との出
会いがあり、今与えられた
この時、どこまで続くのか
わからない不安の時を共に
歩んでいる信仰の友、祈り
の友がいることに力をいた
だきました。

聖書講話に関して：今こそ
聖書から何を学ぶのか？
神様が私たちに何を伝えよ

うとしているのか? この制限ある状況の中、誰一人答えを持たない今こそ……ただじっと待つ、何もできない:今こそ主を仰ぎ、心を注ぎ出す時を与えられたと思いました。

聖書と出会い、聖霊をいただいてイエス様が共に歩いてくださったっている。主によって導かれこの日のためにスカイプが準備され本当に必要な今、私達がスカイプ集会にも参加できたことに感動し、今、集会が閉ざされて会うことのできない信仰の仲間達に伝えたい思いでいっぱいになりました。改めて心より主の導きに感謝しました。(北海道)

○春期四国聖書集会が大きな祝福の中で行われ、私達一人一人に主にある希望の糧道が示され、大きな霊の糧

をいただくことが出来たと感謝に溢れます。

・コロナウイルスの事で、一時は開催が難しいと考えられたこの春期四国聖書集会をもスカイプという手段を与えて下さり、主は新たな道を用意して下さいました。また、その働きに必要な人物、場所、スカイプをするためのスマホやパソコン、可能な限り印刷物参加まで、主を求めれば、必ず応じて下さることを思い感謝でした。

部分参加の方々、様々な事のために参加さえも難しいと思われていた方々で、少しでも参加出来た方々にも、主は精一杯の恵みを与えられたことを聞き、知らされて感謝でした。

それは、一匹でも迷える子羊がいたら、99匹を残して、見つけるまで探した羊飼いの

である主だからこそ、(マタイ18の12〜13)そして全能である神様だからこそ私達一人一人にもこの初めてスカイプによる春期四国聖書集会をこのように祝福され、大きな恵みを与えられたのだと感じました。

以前からパソコンによるスカイプでの主日礼拝参加の道は与えられていましたが、今回をきっかけにスマホによるスカイプ参加を新たに与えられて、毎回の集会の講話等の録音もスカイプの働きをされている方が送って下さり、より簡単に礼拝の講話も聞けるようになりました。

礼拝のためにスカイプの働きをされている方々、そのすべてを備えて下さっている神様に感謝します。ハレルヤ!!(徳島県)

○5月9、10日の春期四国聖書集会、印刷物参加のわたくしを釘付けにしてくださいました。形はどうでもありましてそれは始めての経験でありました。

十一人の方の「証言」。
4人の方の「講話」。聖霊がお運びくださったんですね。共鳴いたしました。それぞれの方々の今の姿が写されていたからですね。こうした企画をして下さり心より感謝いたします。

本当に、声をかけて下さりありがとうございます。そのお働きの上に御心が成りますように。お祈りいたします。(東京都)

○今回の春期四国聖書集会(スカイプによる集会)について 主は、どのような手段や方法を用いてもそこに存在し、導いてくださる

こと。

私たちが主を拒ばない限り、主はいつも傍にいてくださり、まず主がすべてをとりなしてくださっていることを知らされた集会でした。

誰も用意できなかったこと、信じることのできなかったもの「主により頼むこと」「神を第一(主なる神のみを拜ること)に覚える」こと。賛美することができるといになること。「共に」という繋がりの中での祈り、大切さも学びました。(徳島)

○スカイプでの春期四国聖書集会とても恵まれた礼拝でした。まさにエックレシヤ(*)を感じるひと時であったと思います。(三重県)

(*) エクレシヤ ekklesia とは、ギリシャ語で、(この世)から呼ばれた者の集まりという意味。中国語で「教会」と訳され、その訳語がそのまま日本語訳聖書に用いられた。英語では church

(churriakon doma キュリアコンドーム 「主の家」を意味する言葉に由来する。ドイツ語では Kirche (キルヒエ)で、英語と同語源。フランス語では、Eglise エグリーズでギリシャ語のエクレシヤに由来する。(編者注)

○集会がコロナ休会中なので4月から徳島聖書集会に参加させて頂いております。四国集会には日曜礼拝のみ参加させて頂きました。

十数年前、日永康さんと一緒に、徳島電電会館での四国集会に参加させて頂いた折の感激をあらためて思い出しております。

新型コロナウイルスの蔓延をきっかけに新しい時代が始まっていることを実感しております。益々のご健闘をお祈りいたします。(神奈川県)

○スカイプに関しての慣れない操作は、孫に助けられ、思ったより楽に一人でお話伺う事が出来ました。四国

まではなかなか参加出来ませんが、家にいて、全国の皆さまとご一緒に聖霊の豊かなお働きを感謝しながら集わせて頂いて有難うございました。

これからも、よろしくお願ひもうしあげます。年をとつてもこのように出席出来る楽しみがあたえられました。感謝!(中部地方)

○スカイプ集会は初めての経験でしたが、思ったほど難しくなく、映像がないぶん、集中して聴けるように思います。

これからも仕事の都合のつく時はぜひ参加したいと思ひます。よろしくお願ひいたします。(長野県)

休憩室

○ミルトス
ミルトスは、聖書において、

神の救いのわざがなされるときの状況として次のように記されています。

…あなた方は喜び、平安の内に導かれ、山と丘は喜びの声をあげ、野の木々も手をたたき、茨に代わって糸杉が、イラクサに代わってミルトスが生える。

これは主のための記念となり、絶たれることのない永遠のしるしとなる。(イザヤ55の12、13より)

・私は不毛の丘に川を、乾いた地を水の源とし、荒れ野に杉やアカシヤを、ミルトスやオリブの木を植え、荒れ地に糸杉、樺、つげの木を共に茂らせる。

(イザヤ41の18、19より)



(米田 武子画)

お知らせ

○春期四国聖書集会の録音CD

去る5月9日(土)～10日

(日)に開催されたインターネットによる春期四国聖書集会の録音がありますので、希望者は、吉村孝雄まで電話、〒811、FAXなどで申してください。

MP3形式でCD一枚に、二日間の内容がすべて収録されています。

なお、MP3形式のCDを再生する機器をお持ちでない方は、吉村まで問い合わせください。

再生機器の購入を考えておられる方、あるいは、一般のCDプレーヤでも聞ける形式のCDも作成してお送りすることは可能です。

費用は一枚二百円。(送料込)

料込)

一般のCDプレーヤで聞ける形式ですと枚数が数枚になりますので、一セット五百円(送料込)となります。

○スカイプで徳島聖書キリスト集会に参加できる集会は、主日礼拝、夕拝、家庭集会などがあります。

春期四国聖書集会で初めてスカイプを用いての集会に参加された方々も、ご希望の方は次のどの集会でも自由に参加できますので記しておきます。

①主日礼拝：これは年中無休です。午前10時30分～

②夕拝：第二を除く毎月第一～第四火曜日 午後7時30分から開会。(第二火曜日だけは午前10時開会)

このうち、第1、第3、第4の火曜日は徳島市の徳島

聖書キリスト集会の集会場で行っていたものですが、新型コロナウイルスのため、現在は集会に集まることを控えてスカイプで行っています。

第2火曜日の集会は徳島市から80kmほど南にある徳島県海部郡海陽町での数度(すどう)宅で行なっている海陽集会です。

高知県にあと10キロという県境に近いところです。

この集会も現在はスカイプのみで続けています。

③北島集会：毎月第2月曜日の午後1時と第4月曜日。開会は午後1時からです。

これは、徳島県板野郡北島の戸川恭子さん宅で行っている集会です。

これも現在はSkypeで行っています。

以上が、現在、徳島聖書キリスト集会として行なっている集会のうちSkypeで参加できる集会です。

家庭集会としては数度宅や戸川以外にまだいくつかなされていますが、その家庭集会の担当者が全盲であるなどの事情で、スカイプでの集会は難しいために現在はなされていないところがいくつかあります。

今回の5月9日から10日にかけての春期四国聖書集会に参加するために特にSkypeをインストールし、Skypeを使う方法について慣れてきた方々はこのようにな徳島聖書キリスト集会の集会で、Skypeで参加できる集会に参加していただくことよっていつそう操作などに慣れることができ、また参加している方々と

Skype を使つての交流も一層容易になることと思われ
ますのでご希望の方はどうぞご参加ください。

参加希望の際には事前に、
接続担当者の数度勝茂（す
どう かつしげ）、または吉
村孝雄まで、メールもしくは、
電話で申込みくださると好都合です。

吉村の連絡先は、奥付に記載
してあります。

数度 勝茂さんの電話番号
090-3788-8664

メールアドレス

kadoshks7@mb.pikara.ne.jp

携帯アドレス kadosh-001-
jesus@ezweb.ne.jp

○今月号は、春期四国聖書集
会に参加した方々からの感想
などが多く寄せられたので、

掲載し、今後重要となるイン
ターネットを用いる集会の経験
のない方々もより理解を深めて
いただき、少数での祈禱会、集
会などにも用いることができる
ようになり、福音伝道にもつな
がれたいと願っています。

またその編集などのために、
今月号は発行が遅れました。

○なお、パソコン、スマホは持
っているがスカイプをどのように
して使うのか、そのインストー
ルや使い方がわからない方は、
吉村孝雄まで問い合わせて
ください。

○感謝

今回の春期四国聖書集会は、
初めてキリスト教独立伝道会と
の共催による開催でした。

従来は、関東地方での開催に
留まっていた伝道会の冬季聖書
集会、夏期集会でしたが、それ
を関西において開催してはどうかとの発案を出して下さった

伝道会の西澤正文兄、同じく伝
道会の小館知子姉と私をまじえ
てのネットやメール、電話など
を用いてのプログラムや運営の
仕方について検討を重ねました。
去年秋に決まっていたプログラ
ムがインターネットによる開
催となったため、プログラムを
いかに修正するかなど。

資料集の作成、そしてそれら
の印刷、発送等々に御愛労くだ
さった小館姉、讚美集の作成の
労をとってくださいました浅井慎也
兄たちに感謝です。

そして徳島では、インターネッ
トの接続のために、スカイプの
インストールから用い方の丁寧
な説明を、いろいろな方々に多
くの時間をとっていただいた数
度兄、その補佐としてやはり使
い方の説明、接続などのテスト
をし、当日には多くの方々を数
度兄とともにインターネットに
接続し、途絶えた人たちを再度
呼び出し：等々の手間のかかる

作業をしていただいた貝出久美
子姉、さらにスカイプ希望者が
増えてきて林晴美姉もそうした
作業に加わってもらいました。
そしてこの集会のために祈り
を続けてくださった徳島集
会の方々、キリスト教独立伝道
会の方々に―それらすべてを導
いてくださった主に感謝です。

★集会案内

三月～五月は、新型コロナウ
イルスの感染防止のために、集
会場や家庭集會に集まることを
せず、インターネット（スカイ
プ）を用いた集會としています。
徳島聖書キリスト集會のホー
ムページを参照していただくと、
どのような集會であるかがわか
ると思いますので、参加を希望
される方は、左記の吉村孝雄ま
でメール、電話で問い合わせ
てください。



(シャクヤク)

著者・発行人 吉村孝雄 〒七七三〇〇一五 小松島市中田町字西山九一の一四 電話 080-6284-3712 「いのちの水」講読料は自由協力費。送金は、郵便振替口座でお願
いします。番号は、〇一六三〇一五―五五九〇四 加入者名 徳島聖書キリスト集會 協力費は、郵便振替口座、または千円以内ならば、切手(百円以内の未使用の少額切手でも
可)